

県立図書館だより

令和4年6月

青森県立図書館報 43号

デジタルアーカイブから



『青森県庁眺望』（1876）

(https://da.plib.pref.aomori.lg.jp/archives/detail?cls=collect_01&pkey=t0244_07)

青森県のりんご栽培は、明治8年(1875)4月、3本のりんごの苗木が青森県庁の敷地内に植樹されたところから始まった。この資料は、明治9年(1876)の青森県庁を写した様子である。当時の青森県庁は弘前藩の青森御飯屋がそのまま使用されていた。

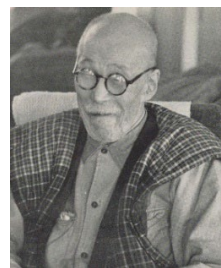
目次

デジタルアーカイブから	1
特別展「教室で出会った文学」	2
横断検索システムと相互貸借制度	3
こどものひろば	4
ご存じですか？この資料 郷土資料の紹介	5
ようこそ文学館へ！ 近代文学館資料の紹介	6
カウンターからひとこと	7～8

特別展「教室で出会った文学」



中学校や高校の教科書に作品が掲載され、多くの人に親しまれてきた作家である森鷗外、夏目漱石、石川啄木、宮澤賢治、与謝野晶子、芥川龍之介、高村光太郎の7人を大きく取り上げるとともに、青森県との意外な関わりを紹介します。



また、太宰治や三浦哲郎ら、教科書に作品が掲載されている青森県出身作家についての関連資料も展示します。



- 会期 令和4年7月16日(土)～9月19日(月・祝)
9時～17時 [7月16日(土)10時～]
休館日 7月28日(木)、8月25日(木)、
9月14日(水)
- 会場 青森県近代文学館企画展示室(青森県立図書館2階)

【関連企画】

◇朗読劇「教室で出会った太宰作品メドレー」 8月21日(日)14時～15時

【夏休み企画】

◇「太宰治と文豪の秘密ガイドツアー」 夏休み中 毎日3回

※小学生10時～、中学生14時～、高校生16時～

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、予定が変更になる場合があります。

最新情報はホームページをご覧ください。電話017-739-2575までお問い合わせください。

〈画像出典:国立国会図書館「近代日本人の肖像」(<https://www.ndl.go.jp/portrait/>)〉

知っているとより便利！

横断検索システムと相互貸借制度



当館のホームページにある「横断検索」を利用したことはありますか？

この「横断検索」機能を使うと、青森県内の複数の図書館等の蔵書検索システムを一度に（横断的に）検索できます。

令和4年6月現在、横断検索できる図書館等には当館のほか、県内21の公共図書館等及び11の大学等図書館や県立機関等も含まれています。



「検索先を設定する」から、よく利用する検索先を予め設定しておく、より早く探している本を見つけ出すことができます。

なお、探している本を利用するには、所蔵している図書館に直接出向くほか、「相互貸借」制度を利用できる場合があります。

★相互貸借制度とは…？

地元の図書館や公民館図書室等に読みたい本の所蔵がない場合、図書館同士の貸し借りにより本を取り寄せ、地元の図書館等で貸出しを受けることができる制度です。横断検索にデータを提供していない図書館等でも、利用可能です。

利用・申込方法等は各図書館等によって異なりますが、県立図書館の本は、**無償**で利用することができます。

地元にはない本を読みたい！という方は、ぜひ、地元の図書館等で相互貸借制度についてご相談ください。



こどものひろば



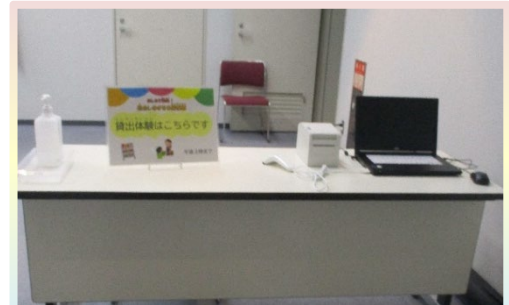
児童閲覧室のイベント「おはなし会」と「おしえて先生！知るしるする探検隊」は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、2022年2月から開催を見合わせていましたが、県内の感染状況を踏まえて4月に変更された「新型コロナウイルス感染症に関する青森県対処方針」に基づき、感染症対策を見直した上で、5月から再開しました。

久しぶりの開催となった5月28日の「おしえて先生！知るしるする探検隊」のテーマは、「図書館を探検しよう」でした。

感染症対策のため、残念ながら子ども達に実際に館内を歩き回って探検してもらうことはできませんでしたが、普段は図書館職員しか入ることのできない書庫の様子や、本の背に貼ってあるラベルに書かれた記号の意味など、図書館のいろいろな秘密を解き明かしながら、まるで館内を歩いて探検している気分になれるようにスライドを使って案内しました。



また、図書館の本を借りる手続きを自分で体験できる「貸出体験」では、参加してくれた子ども達がきちんと距離をとりながら自分の順番を待ってくれました。そして、どの子どもも嬉しそうに自分の借りたい本を選び、張り切ってバーコードを読み取っていました。



新型コロナウイルス感染症の拡大から約2年半が経ちましたが、はっきりとした終わりが見えないまま、今もウイルスとの闘いが続いています。

これからも当館は、感染症対策に試行錯誤を積み重ね、県内の感染状況とにらめっこしながら、今できる形で、子どもたちが本に触れるきっかけづくりに取り組んでいきたいと思えます。

2022年 児童閲覧室のイベント

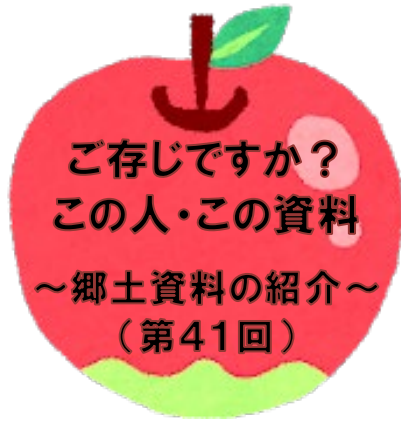
どちらも14時から
14時30分までです。
青森県立図書館の4階
集会室で待ってるよ！

おはなし会

毎月第2土曜日

おしえて先生！
知るしるする
探検隊

毎月第4土曜日
(11, 12, 3月を除く)



青森県立図書館では、内容が青森県に関する主題となっている資料を「郷土資料」として収集しているほか、県内在住・県内出身で活躍している方々による芸術・文学分野の資料（当館では「郷人資料」と呼んでいます）も収集しており、その一部は子ども向け図書として児童閲覧室で提供されています。

今回は、郷人資料のうち、今年出版された児童文学をご紹介します。

『ふたりのえびす』（高森 美由紀著 2022.1）

『森のクリーニング店シラギクさん 友だちになった日』（高森 美由紀著 2022.2）

三戸町出身の高森美由紀（たかもり・みゆき）さんは、青森県内で仕事をしながら作家活動をしており、主に小説と児童文学を手がけています。

『ふたりのえびす』は、八戸えんぶりの「えびす舞」が題材となっており、高森さんの過去作『いっしょにアンベ！』（2014）と『ケンガイにっ！』（2016）を含めた3作は、いずれも青森県の南部地方が舞台となっています。

『いつも強くてカッコいい女の子』（蓼内 明子著 2022.1）

『ブレーメン通りのふたご』（蓼内 明子著 2022.2）

蓼内明子（たてない・あきこ）さんは、七戸町出身の児童文学作家です。児童書を中心とした出版社・フレーベル館が、2017年に創設した「フレーベル館ものがたり新人賞」の第1回大賞を受賞し、その受賞作品『右手にミミズク』で2018年にデビューしました。

1960年生まれの蓼内さんは児童文学同人としても長く活動しており、デビューの10年前には『家族っていいね 1・2年生』（日本児童文学者協会編 2008）に、短編「ろうそくの夜」が掲載されています。

『青いドラゴンになった女の子』（雪の結晶の亀著 2022.4）

『いたずら神のおくりもの』（雪の結晶の亀著 2022.3）

南部町在住の三浦恭子さんが、雪の結晶の亀（ゆきのけっしょうのかめ）というペンネームで創作活動を始めたのが2018年です。電子書籍で先行発表されていた2作の絵本が、このたび紙媒体でも出版されました。

『まりこの手／むーさんのパン』（mawu文 野坂 英恵 絵 2022.4）

2つの違うお話が交差する本。絵を担当している野坂英恵（のざか・はなえ）さんは青森県出身です。手書きによるイラストレーション、アート作品の制作のほか、ペーパークラフトのデザイナーとしても活動しています。

今回ご紹介した資料は、いずれも貸出可能です。どうぞご利用ください。

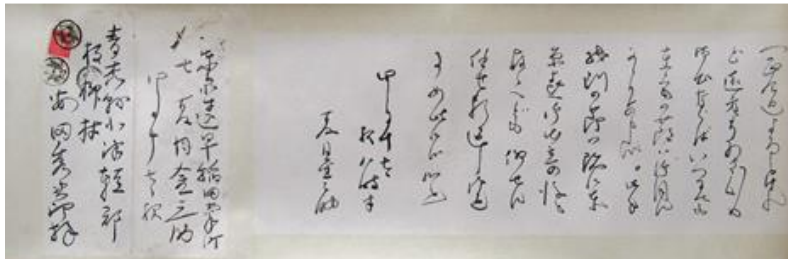
ようこそ文学館へ！

近代文学館資料の紹介(第42回)

特別展「教室で出会った文学」展示資料から

青森県近代文学館では令和4年7月16日から9月19日まで特別展「教室で出会った文学」を開催します。今回は展示資料の中から、夏目漱石書簡と、与謝野寛・晶子夫妻が自作短歌を書き付けた屏風の2点をご紹介します。

①安田秀次郎宛 夏目漱石書簡（明治41年4月17日付）



夏目漱石が1908(明治41)年に青森県板柳の歌人・安田秀次郎(号:蛇苺)に宛てたものです。

2018(令和元)年に収蔵した卷子仕立ての書簡であり、今回の特別展における初公開資料です。

明治40年代、青森県の文学は、中央文壇の影響を受けながらも地方独自の文学を形成していく、新しい文学の胎動が起こった時期にありました。板柳は草深い農村でしたが、中央から一流の文化人を招聘するなど文化運動の盛んな土地であり、安田秀次郎はその中心人物の一人でした。書簡には、「もしお立ち寄りになるなら毎週木曜が都合がよいが、わざわざ遠くからいらっしゃるのであれば、在宅時ならいつでもお会いできます」といった内容が綴られています。

②与謝野寛・晶子自作短歌屏風

与謝野夫妻は1925(大正14)年9月に板柳を訪れたことがありました。この屏風は板柳に数々の文化人を招いた功労者、坂本元太郎が所蔵していたもので、与謝野寛(号:鉄幹)、晶子の自作短歌が書き付けてあります。

与謝野晶子が自作の短歌を散らし書きした屏風は通称「百首屏風」と呼ばれ、全国で少なからず存在が確認されています。



揮毫された短歌の中で、寛の作と分かるのは2首、晶子の作と分かるは29首、どちらの歌か判然としな
いものは16首です。(結婚後の晶子は次第に寛と似たような字を書くようになったと言われており、筆跡
だけで判断することが困難です。)

カウンターからひとこと (第41回)

今回は、青森県立図書館情報システム更新により導入された新たな機能Myライブラリについてご紹介します。

●Myライブラリの機能

Myライブラリにログインすると、以下の機能を使用できます。



The screenshot shows the 'My Library' (Myライブラリ) interface. At the top, there are navigation tabs: 'トップメニュー', '資料検索', '資料紹介', 'お知らせ一覧', and 'Myライブラリ'. Below the tabs, there's a search bar and a 'Myライブラリ' header with a sub-header: 'Myライブラリでは、図書館の本の利用状況をまとめて確認することができます。'. The main content area is divided into several sections:

- ① 借りている資料** (Borrowed materials): 0冊 (0 items). Includes a sub-section for '借りたい資料' (Materials to borrow) with 0冊.
- ② 予約した資料** (Reserved materials): 0冊 (0 items). Includes a sub-section for '予約かご' (Reservation basket) with 1冊 (1 item).
- ③ 予約かご** (Reservation basket): 1冊 (1 item).
- ④ 借りたことがある資料** (Materials previously borrowed): 0冊 (0 items).
- ⑤ KinoDen** (KinoDen): A section for digital books.
- ⑥ さんが作成した本棚一覧** (List of bookshelves created by you): A section for creating and managing bookshelves, showing a list with 'あとで読みたい本' (Books to read later).
- ⑦ 利用者情報** (User information): A sidebar on the right for setting user details like email, SDI, and library preferences.
- ⑧ SDI** (SDI): A section for setting up SDI (New book notifications) with a condition '条件1: 太宰治 配信中'.

- ①借りている資料 現在借りている資料を確認できます。
延長手続きもこちらから申し込みできます。
- ②予約した資料 予約した資料の状況を確認できます。
- ③予約かご 予約かごに入れた資料を確認できます。
- ④借りたことがある資料 貸出履歴を確認できます。
- ⑤KinoDen 電子書籍を閲覧できます。
- ⑥本棚 本棚の作成（資料情報の保存）ができる機能です。
- ⑦利用者情報 パスワードやメールアドレス、貸出履歴等を設定できます。
- ⑧SDI(新着図書お知らせメール) . . . 新着図書をメールでお知らせする機能です。

続いて、Myライブラリの使い方についてご紹介します。

● Myライブラリへのログイン

当館ホームページトップ画面より、Myライブラリの「ログイン」をクリックすると、認証画面へ移動します。

認証画面で利用者番号とパスワードを入力し、「ログイン」をクリックすると、Myライブラリにログインできます。パスワードをお持ちでない方は、パスワードの発行が必要です。申請方法については当館ホームページ「パスワードの発行」をご覧ください。



⇒ (<https://www.plib.pref.aomori.lg.jp/user-guide/service/register/password/>)

● 利用者情報の登録・更新

「利用者情報」の「設定」をクリックすると、以下の項目を登録・更新できます。

- ①パスワードの変更
- ②メールアドレスの登録
- ③各メールの配信先
- ④予約受取館の指定：各市町村立図書館で本を受け取る場合、受取館の指定が必要です。
- ⑤予約連絡方法の指定
- ⑥貸出履歴：貸出履歴「残す」と設定した後、借りた本の履歴を残すことができます。

Myライブラリの詳しい使い方は、当館ホームページ「Myライブラリの使い方」をご覧ください。⇒ (<https://www.plib.pref.aomori.lg.jp/mylibrary/use/>)

★ スマートフォンを利用者カードとして使えます

スマートフォンからMyライブラリにログインすると「利用者カード」の画面を表示できます。画面を表示していただくと、貸出手続きが可能です。利用者カードをお忘れの際などにご利用ください。

【表示までの手順】

Myライブラリにログイン→「Myライブラリ」をタップ→「利用者情報」をタップ→「利用者カード」をタップすると画面が表示されます。



その他の機能の使い方は、また次回、ご紹介します！